

026

避難困難者の命を守る、車いす補助装置を開発

- ✓ スピーディーに車いすを人力車のようにする装置
- ✓ 女性や子どもでも、車椅子利用者の移動をスムーズに支援できる

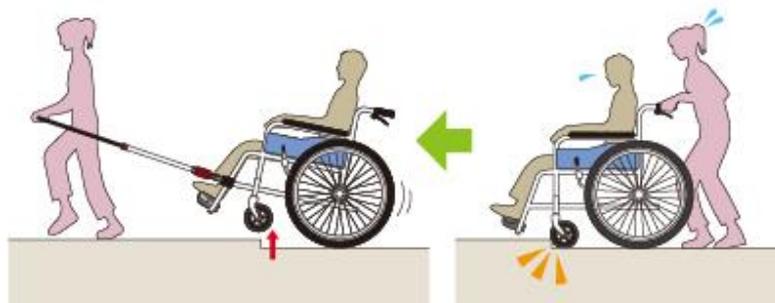
取組主体	従業員数	想定災害	実施地域
株式会社 JINRIKI	8名	地震等	長野県ほか

株式会社 JINRIKI は、既存の車いすに装着するだけで、人力車になる補助装置を開発した。

1 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

車椅子の移動をよりスムーズにする補助装置を開発

- 株式会社 JINRIKI では、芝生や土の路面、砂利道や積雪時・砂浜等、今までは困難だった不整地での車椅子のスムーズな移動を可能にする車いすの補助装置を開発し、その普及を行っている。
- 同社が開発した装置は車椅子に取り付ける牽引式レバー。車椅子の後輪の車軸を支点と考えると、このレバーを取り付けた場合には後ろから押すときに比べ、より遠くから力を加えることになり、てこの原理により、比較的少ない力で前輪を浮かせることができる。これにより前輪が段差等に引っかかった際にも人力車のように持ち上げることができ、力が弱い人であってもスムーズに移動を補助することができ、不整地等での移動性も向上する。



てこの原理を利用して車椅子で段差を乗り越える

要支援者の被害の軽減に向け、震災・津波被害を機にこれまでに温めていたアイデアを製品化

- 同社の代表は、観光業に携わった経験から、河川敷や山道等での車椅子による移動の不自由さを理解していた。加えて、親族に車椅子使用者がいたこともあり、以前から、てこの原理で車いすの前輪を持ち上げることを着想していた。そのような中、東日本大震災において大規模な津波が発生し、足の不自由な人や高齢者等において大きな被害が生じた。同社では災害時の要配慮者の被害の軽減に向け、アイデアとして温めていた牽引式レバーの開発に着手した。
- この製品は、30 秒程度で取り付けができ緊急時に素早く使用ができる、子どもや女性等の非力な人でも容易に牽引ができる、救援物資の運搬等人の運搬以外にも使用できる、低コストといった特徴がある。同社では、より多くの人を助けたいという思いから、国内の既存車椅子の90%に装着可能な仕様として平成 25 年の販売開始以来約 5,000 台を提供している。また同社では、取得した特許についても使用権を開放し、国内でも5社が類似商品を製造・販売している。
- 発災時には、足に障がいがある人だけでなく、視覚障がい者や認知症、痴ほう症を抱える人も自力避難困難者となる。また、彼らを支える介助者も逃げ遅れてしまうケースもある。同社代表、要支援者と介助者の双方が迅速に避難できる手段の一つとして、どのような場所でも素早く移動できる車椅子が活用されることを期待している。



同製品を使用して車椅子を引いて砂浜を進む子ども

2 取組の平時における利活用の状況

避難訓練に加え、福祉避難所や各種イベントで体験の機会を提供

- 同社では国や自治体が開催する避難訓練に参加し、体験利用等の機会を設けている。同様に、福祉避難所や障がい者スポーツ関連イベント、福祉イベント、地域のお祭り等の機会においても体験会を開催し、同製品の使い方や利便性、いざという時の効果等について、理解を育む取組を行っている。

平時の移動の円滑化にも貢献

- 車椅子ユーザーはバリアフリー化が進んでいない観光地においても、同製品を使用することで、車椅子に乗りながら観光を楽しむことができる。これまでに複数の鉄道会社や庭園、お祭り等で試用がなされた。一方、観光地は、大きな設備投資をすることなくバリアフリー化を実現でき、これまで誘致できなかった層を呼び込むことができるというメリットを得られる。これは地方創生にもつながると同社の代表は期待する。また、車椅子ユーザーの視野や行動範囲が広がることは、メンタルヘルスの向上にもつながると考えられる。



福祉避難所での体験会



山地、観光地、雪山など様々なシーンで使用される同製品

3 現状の課題・今後の展開等

要支援者の避難訓練等への参加も重要

- 災害対応力を高めるためには、車椅子ユーザー等の要支援者が、災害時を想定した訓練等に参加することのできる機会をより一層広げていくことが必要だと同社では認識している。
- また同社では、自治体の補助制度や介護保険等を活用した購入を今後より一層推進し、同製品の普及を進めていくこととしている。

4 周囲の声

- 同製品を使用すると走った時の振動が響かなくて良い。逃げる時も通常の3倍以上のスピードが出せる感覚がある。(製品使用者)

担当者の声



要配慮者でも避難を諦めて欲しくない

- 災害時において、車いすの使用者をはじめとする要配慮者だけでなく、その介助者も逃げ遅れてしまう恐れがあります。移動が困難であるという理由で避難を諦めて欲しくない、という思いで開発を行いました。
- また、また災害現場においては、障がい者等の移動はもちろん、ケガ人の搬送、水や缶詰等重い救援物資を輸送するリアカーの役割も果たします。

問合せ先

株式会社 JINRIKI 法人番号: 9100001025696
TEL 050-5835-1000 FAX 0265-98-8921 E-Mail contact@jinriki.asia